は　じ　め　に

21世紀の幕開けとともに省庁再編が行われ、文部省の「特殊教育課」は、文部科学省の「特別支援教育課」となり、支援が必要な子どもたちすべてに対応していくという姿勢を示しました。その諮問機関である「21世紀の特殊教育のあり方に関する調査研究協力者会議」から提出された報告書の中にも、これからの教育は、「児童生徒等の視点に立って一人一人のニーズを把握し、必要な支援を行うという考えに基づいて対応を図る必要がある。」と記されています。ＬＤ(学習障害)児は、その多くが通常の学級に在籍していることから、まさに特別な支援を必要としている子どもたちということができます。

すでにＬＤについては、平成11年７月に文部省(現文部科学省)から「学習障害児に対する指導について(報告)」が出されており、指導に当たっては、通常の学級での指導を基本とし、校内すべての先生方の共通理解及び協力のもとに、担任が配慮して指導に当たることが求められてきました。

しかしながら、各学校においてはまだまだ十分な指導がなされているとはいえない現実があります。ＬＤ児が周囲の友達や先生方によく理解されず、苦しんでいたり自信を失っていたり、孤立したりすることも多く見受けられます。また、多くの先生方がＬＤ児を目の前にして、その理解や対応などについて悩んでいることも事実です。

このような現状に対し、当教育研究所では、プロジェクトチームを組織し、ＬＤ児の理解と指導の在り方について研究を進め、教育実践の参考に供したいと考え「特別な教育的支援を必要としている子どもたち　ＬＤ(学習障害)―理解・啓発ガイドブック―」を作成いたしました。

本冊子は、すべての教育関係者の方々に理解していただけるような入門書として、できるだけ専門用語は使わず、やさしい表現を用いました。また、指導に役立つよう支援のポイントをできるだけ多く示しました。子どもたち一人一人が輝き、楽しい学校生活を送れるよう、本冊子を活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本研究を進めるに当たりご協力いただいた指定研究員の先生方並びにご指導、ご助言いただきました関係各位に心からお礼申し上げます。

平成14年２月

奈良県立教育研究所
所長事務取扱　中 尾 勝 二